

# 建学の精神と誇りを堅持し 教育と環境の充実を図り 次世代の女子教育に取り組む

長年、名古屋市立大学で小児科の新生児学研究に携わっていらっしやった戸荊創氏がこのたび新しく学院長に就任されました。

小児科医としてのご自身の経験や学院の建学の精神を基に、次世代の女子教育に対する思いや、より豊かな教育環境作りについてお話を伺いました。

## 小児科医の経験を基に 全人的教育の実践へ

これまで40年以上にわたって名古屋市立大学を拠点に小児科の臨床と新生児学を研究してまいりました。新生児医療は、子どもの発達や発育がベースとなります。今でこそさまざまな病態の解明が進んでいますが、私が着手したころの新生児医療はまだわからないことが多く、まさに手探り状態で研究を行っていました。その中で、一つでも多くの新しい医療技術を開発して患者さんにフィードバックできるよう日夜研究に励んできました。

新生児や子どもに対する医療は限られた情報の中から適正な判断を行って治療方法を見いださなくてはならず、ときには困難を極めるため、小児科医はなり手が少ないのが

現状です。また病院長や学長職を務め、医療環境や大学環境の改善、さらに後進の育成にも取り組んでまいりました。こうした経験を踏まえ、今回縁あって金城学院長に推挙されましたことは大変光栄なことであると同時に、新たな重責を感じております。

金城学院の歴史は今年で126年を迎えますが、建学の精神を礎に、キリスト教に基づく女子教育を堅持していることは誇りであると思えます。私がこれまで行ってきた医学研究は子どもが中心でしたが、小児科医としての立場からも金城学院のように全人的な教育を行っていく重要性を実感してまいりました。

子どもは学校や社会だけではなく、赤ちゃんのときから家庭で教育をはじめると考えています。世の中では今、若年層の犯罪が頻発していますが、こうした事件を見聞きするたびにあらためて家庭教育の大切さを思い知らされます。子どもにとって最初の教育者は母親です。子どもは母親の動作だけではなく母親が心で思っていることも敏感に感じとり、真似をしながら成長していきます。家庭でのしっかりした心の教育を

受けた子は、心身ともに健やかな子へと成長します。

将来、母親となる可能性の高い次世代の女性にとって金城学院の建学の精神は大変重要であり、またこうした女性教育にかかわれることはとても光栄なことだと感じています。

## 人生に影響を与える

### 幼稚園・中学・高校・大学の教育環境

金城学院幼稚園時代、そして中学校・高等学校・大学の一貫した女子教育の中でも、どのような環境で学び、過ごすかによってその後の人格形成や近い将来の生き方に深い影響を与えます。人間としての教育は、人生の初期からはじめねばなりません。

金城学院幼稚園での教育は家庭での教育とともに大変重要です。まもなく開設されます金城学院大学KIDSセンターとともに、より若い年代の教育に取り組んでまいります。また中学・高校時代は学び以外にも部活動や課外活動を通して、秀でた能力が芽生え、発揮される時期でもあります。こうした時期こそ、この金城学院のようにキリスト教教育の充実した環境の中に身を置くことは生徒たちにとって大切なことです。やがて大人になり、キリスト教から離れることとなっても、幼稚園・中学・高校の





## ■Profile

### 戸荻 創 学院長

2001年2月～2010年3月 名古屋市立大学 小児科教授  
2007年4月～2010年3月 名古屋市立大学病院 病院長  
2010年4月～2014年3月 名古屋市立大学 理事長・学長  
2014年4月～現在 名古屋市立西部医療センター長  
2015年4月 学校法人金城学院 学院長就任

時期にこうした環境で学ぶことはその後の人生に大きな影響を与えることでしょう。そのため我々教員・職員も影響を与える一人としての自覚を持ち、建学の精神に基づいた女子教育を行い、人間としての考え方を伝えていかななくてはならないと思います。

大学は中学・高校とは教育的な役割が異なります。学生にはぜひ「この大学でなければ得られない」というものをつかんでいただきたいと思っています。金城学院大学の卒業生はひと味違うと言われるようになってもらいたい、そのために我々教員・職員が一丸となって今、教育に取り組んでいます。

専門性を極め、プラス金城学院大学ならではの豊富な知識や豊かな人間性とDignity(品位と尊厳)を身に

つけてもらいたいと願っています。

時代とともに、学生・生徒たちの考え方や将来の生き方も変わっていきます。我々は常に時代の変遷に対応する新たな教育方法を模索していかななくてはならず、またそれを実際に実践しているのがこの金城学院のすばらしい特徴であるとも思っております。

### 多世代に渡り愛される 学院の伝統と誇りを次世代へ

金城学院は1889年にアニー・E・ランドルフ先生が開学されて以来、毎年発展を遂げ、本年金城学院の幼稚園・中学校・高等学校・大学・大学院に在籍する学生の総数は7,654名を数えます。今年126年

目を迎えますが、創立以来一貫して「福音主義キリスト教」に基づいた、全人教育、女性教育の実践を堅持してまいりました。中でも、エラ・ヒューストーン先生の教育方針は大変厳しく、絶えず生徒には「品位を持ちなさい(You must have dignity)」と指導されていましたが、本学院はこれも堅持していますし、今後も揺らぐことはありません。

さらにこの金城学院には一つの家庭やご親族から多世代にわたって通われたという方々が大勢いらっしゃいます。最近では4世代続いて金城学院というご家庭も出はじめました。このように多世代にわたり、金城学院愛を持っていただけることは大変名誉なことであり、まさに金城学院の矜持だと思えます。こうした誇りある伝統をこれからも守り続け、多くのすばらしい女性を世の中に送り出せるように、より一層充実した教育や環境作りに取り組んでまいりたいと思っております。